

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4071900866
法人名	(有) エイエスサービス
事業所名	サンホーム
所在地	福岡県田川市大字楠2301番地96 電話・FAX 0947-45-5050

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん
所在地	直方市知古1丁目6番地48号
訪問調査日	平成 19 年 11 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 10 日

【情報提供項目より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 20 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
常勤	10 人
非常勤	9 人
常勤換算	9.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	7,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

登録人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	6	要介護2	7		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.8 歳	最低	65 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	深田内科医院 きたはら歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

サンホームは平成14年12月に楠の小高い丘の上に、2ユニットがそれぞれ別個に建てられた木造平屋のグループホームである。玄関や庭は入居者が丹精した花で彩られ、開設当初より「ゆっくり・のんびり暮らせる環境で出来る限りわがままを聞きます。」との理念を具現化したいと、入居者や家族の意向を大切に日々のケアに取り組んでいる。現在は、入居者や職員が公民館活動・草取り・老人会グラウンドゴルフ等の地域活動に参加したり、今年開催した納涼祭には地域から230名の参加があるなど地域交流に努めている。入居者の生活環境等を考慮し、成年後見人制度の活用にも積極的に対応している。入居者2名が地域の納骨堂を手配して運営者に供養をお願いしていることから、入居者の運営者への篤い信頼が伺える。そして、ホームで雇用した知的障害者や視覚障害のある介護支援専門員を通じて、認知症及認知症のケアの向上を図っていることから、運営者のノーマライゼーションの視点も伺える。2ヶ月毎に開催された運営推進会議では、地域代表等の意見で道路に面したホーム入り口が舗装されるなど、ホームの運営に積極的な意見交換が行われている。以前から市内外のグループホームで連絡会を発足し情報交換等を行っているが、日々のケアでの地域との関わりから、地域密着型サービスとして更なる躍進が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価後改善計画シートを作成し、人権教育に取り組み理解を深めている。事故防止マニュアルを作成し、勉強会を実施している。介護計画は4ヶ月毎または入居者の状況に応じて、見直しをしている。近隣の行政機関が主催した介護教室の講師を引き受けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価はカンファレンスで話し合い、全職員で記載している。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は2ヶ月毎に家族・町内会副会長・市職員等の参加で開催され、ホームの状況や外部評価の報告がある。その折、グループホームの入り口の歩道が危険との意見が出て、町内会副会長の助言や市職員の働きかけで舗装されている。次回の議題に後見人制度の導入を予定している。議事録も作成され毎回議事内容を玄関ホールに掲示している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 比較的家族の訪問が多く、その折に本人の近況を説明しているが、何か変化があればその都度電話などで連絡している。定期健康診断は11月に予定している。金銭の預かりはなく、受診料などは領収証で清算している。職員の異動は現在行わず、特定の担当者制にすることで入居者に安心感を与えている。成年後見人制度のパンフレットを整備し、入居者や家族に説明し活用を促している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣組に加入し、公民館活動に参加している。老人会のグラウンドゴルフに2~3名の入居者が参加したり、神幸祭に職員が参加し御輿がホームまで来ている。地域のボランティア10名の協力を得て納涼祭を開催し、地域住民230名が参加している。金田小学校の職場体験学習で10名の子ども達が訪問し、その子ども達から作品が贈られている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	暖かみのある力強い書体で大きく「人として生きること人といっしょに生きること・・・」と記載された理念を玄関に掲げ、家族や地域の中で暮らすことがあたりまえと捉えているが、運営規程・パンフレットに理念が明記されていない。職員は理念を自分の言葉で語れる。	○	地域との関わりが出来てきているので、パンフレットや重要事項説明書などに地域密着型サービスの理念を謳っていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティングなど機会ある毎に職員に理念を話している。また入居者からも理念について尋ねられ説明しているが、職員も一緒に聞いている。入居者の話をよく聞き、日々の関わりに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入し、公民館活動に参加している。老人会のグランドゴルフに2～3名の入居者が参加したり、神幸祭に職員が参加し、御輿がホームまで来ている。地域の10名ものボランティアの協力を得て納涼祭を開催し、地域住民230名が参加している。金田小学校の職場体験学習の訪問があり、その子ども達から作品が贈られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を理解し、外部評価後課題を検討し、作成した改善シートに沿って改善に取り組んでいる。今回の自己評価はカンファレンスで話し合い、全職員で記載している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に家族・町内会副会長・市職員等の参加で開催され、ホームの状況や外部評価についての報告している。その折、グループホームの入り口の歩道が危険との意見が出て、町内会副会長の助言や市職員の働きかけで舗装されている。次回の議題に成年後見人制度の導入を予定している。議事録も作成され毎回議事内容を玄関ホールに掲示している。	○	運営推進会議の目的・内容・メンバーを記載した実施要領の整備が求められる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣の行政機関が主催した「ほのぼの介護教室」の講師を引き受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	年に1回、成年後見人制度や人権学習の勉強会を行い理解を深めている。また成年後見人制度のパンフレットを整備し、入居者や家族に説明し、説明者および説明を受けた方の署名がある。さらに運営推進会議にも検討議題に取り上げられている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	比較的家族の訪問が多く、その折に本人の近況を説明しているが、何か変化があればその都度電話などで連絡している。定期健康診断は11月に予定している。金銭の預かりはなく、受診料などは領収証で清算している。職員の異動は現在行わず、特定の担当者制にすることで入居者に安心感を与えている。	○	家族への定期的報告をお願いしたい。また、入居者の状況等を随時家族に連絡しているのでその記録や連絡時に把握した家族の意見や要望の記録もお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設置されていないが、運営推進会議に参加したり、設置した苦情相談箱への投函を通じて、意見の集約を行っている。	○	運営推進会議に家族が1名参加しているが、家族会を発足しさらなる家族の意見の集約をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員の異動が利用者にとってダメージがあることを理解し、今年1月より常勤者を固定し、入居者が馴染みの職員から支援を受けられるようにしている。ここ2年離職者はない。管理者も職員に細かいことは言わず、主任を中心に連携が取られている。</p>		
5. 人材の育成と支援						
	11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員採用時の基準はないが、認知症の入居者が理解できることとしている。職親制度で障害者を雇用し障害者の社会参加や自己実現を支援している。雇用契約書(サービス規程も含む)が取り交わされているが、定期健康診断が実施されていない。休憩室で交代で休憩を取ったり、時間外労働をできる限りしないような環境作りを取り組んだり、食事会・ボーリング大会で親睦するなどストレス緩和に努めている。</p>	○	職員の定期健康診断の取り組みをお願いしたい。
	12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を開き、管理者・職員共に人権に対する理解が深まるように取り組んでいる。人権教育・啓発活動のパンフレット及び身体拘束・虐待防止マニュアルが整備されている。運営規程に身体拘束、虐待防止について明記がない。</p>	○	運営規程に身体拘束、虐待防止についての明記が求められる。また、身体拘束や高齢者虐待防止マニュアルの整備もお願いしたい。
	13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修や研修参加の募集要項等を掲示し、職員の応募を受け付けている。外部研修参加者はミーティングの場で伝達講習をするなど、研修を受けてない職員もトレーニングしている。スーパーバイザーは居ないが、職員の悩みは介護支援専門員や管理者が対応している。</p>		
	14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>田川市郡のグループホームと連絡会を設立し、地域の同業者との交流を深めると共に、情報交換をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談当初から家族とは密に話し合いを行い、本人の意向を聞き、ホームに馴染めるように利用者に合うユニットを選んだり、本人や家族の希望を充分満たすように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者間のトラブルに穏やかな入居者が仲裁に入ってくれて、対応を教えられたこともある。また、台所の片付け方や生活の知恵を伝授してもらったりと、共に支え合う関係づくりがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や職歴・趣味など入居者の話を良く聞くとの姿勢の下、お茶会や入浴の介助時などに意向を把握している。男性の入居者は起床すると即朝食を食べたり、ある女性の入居者は朝6時に仏前にご飯のお供えをされるなど、個々の入居者の生活リズムに合わせた対応をしているが、把握した意向や生活リズムなどの記載がない。	○	居宅サービス計画書第3表に、利用者から把握された意向や生活リズムの具体的な記載が求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当者よりの情報から介護支援専門員が作成し、ケアカンファレンスで検討しているが、把握した入居者や家族の意向を記載した書類の整備がない。介護計画は例えば歩行訓練をするとなっており、それはトイレに1人で行くためなのかなど、具体的な意向や目的の記載がない。	○	把握した入居者や家族の意向を経過記録などに記載し、モニタリングやカンファレンスでその意向を活かし、個別的・具体的な介護計画を作成して頂きたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、4ヶ月毎または入居者の状況の変化に応じて行い、見直した介護計画は家族へ説明し同意印を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状況により入居者や家族と話し合い、柔軟に自主サービスで買い物・美容院・受診を支援しているが、時には強い帰宅願望等で自宅に連れて行く(日に6回行く事もある)等を3ヶ月も支援したこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居当時よりのかかりつけ医受診や専門医受診も支援している。歯科医の往診を受けており、今後は協力医療機関からの往診も考えている。受診の結果は家族へ電話による報告をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医とは話しているが、主治医・看護師・家族・職員・管理者等の話し合いの内容記載が無い。終末期に関する方針を整備し、訪問看護も受けているが、全職員による終末期への取組みは今後の課題である。	○	全職員が終末期の方針を共有できるように資質の研鑽をお願いしたい。具体的な終末期対応マニュアルの作成をお願いしたい。また、訪問看護の健康管理の書類の整備が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程に守秘義務やプライバシー保護の遵守が明記され、人権の尊重について研修会等で管理者は定期的に職員を指導している。個人情報の保護に関する規程や個人情報の利用目的を記載した書面の整備がない。	○	個人情報の保護に関する規程や個人情報目的を明記した書面を整備し、入居者や家族に説明や配付をお願いしたい。さらに、ホーム内の掲示が求められる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者個々のペースで生活できるように起床時間や消灯時間は無い。本人の日内リズムを把握する事で、体調変化に気づき脳梗塞を発見し一命をとり止め、現在ホームで生活している入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューはお茶時等に聞き、食材の買い物は2～3名の入居者がしたり、後片付けは仕事と行って行っている入居者もいる。茶碗、箸、湯のみは持ち込みの物が使われている。職員は朝夕食は伴食し、昼は持参した弁当を食べながら食事介助等や会話をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はいつでも夜間でも可能で、20時に入浴する入居者もいる。一番風呂を楽しみにしている入居者もあり、トラブルにならない様に順番を決めている。入浴拒否者には家族に支援をお願いし、入浴途中から職員が援助する事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で個々の生活歴や趣味の園芸・花植え・鶏、猫の餌やり・ボタン付け・刺繍等を出来るだけ活かせる様に、職員は声掛けや見守りで対応している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気の合う者同士での衣類・日常雑貨の買い物やコーヒーを飲みにつき添ったり、理髪店・後藤寺の商店街・ジョイフルなどの外出支援をしている。ホーム周囲やホーム外の散歩を日課としている。入居者の希望で列車で若松まで同伴したこともある。最近、全員でビール工場のコスモスを見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は鍵を掛けることの弊害を理解し、居室や玄関に鍵を掛けていない。無断外出者について近隣の方から電話があったり、派出所の警察官に協力をお願いしているので、巡回訪問がある。92歳の入居者がホームを出て5～6km歩いて行かれ、職員が後ろから見守りしながら付いていった事もある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害対応マニュアルを整備し、いつでも地域へ協力を依頼できる。ホームの前や隣の駐車場の広場を避難場所に確保し、避難訓練を実施している。消火器及び2号館はスプリンクラーが整備されている。飲み水や食品は備蓄していないが、トイレ・風呂等の水は確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のおおよその摂取カロリーは1600Kカロリー位である。食事の摂取量や水分量を記録している。一人ひとりの状態を把握し食事制限が必要な入居者は主治医から摂取カロリーの指示を受けたり、必要に応じてパン食、粥食、キザミ食にして水分量も管理している。体重測定は月2回行って体調変化に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から居間が直接に見えない造りで、明るい居間には食事用のテーブルと色々なソファがある。廊下の突き当りにも椅子があり、入居者が好みの場所で過ごせるように配慮している。居間から庭が見え、窓を開け換気をしたり空気清浄機も設置している。床全面に消臭マットが敷かれている。1号館は騒音を防止するために道路に面した窓などは2重構造にしたり、西陽を避ける黒いネットを利用している。1号館でのトイレ・風呂の介助スペースが狭いとの反省から2号館は広くスペースが取られ、入浴介助を容易にするなど、いたる所に生活の場としての工夫や配慮がある。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・ダンス・籐製の椅子はホームの備え付けであるが、テレビ・位牌・写真、お気に入りの家具等の持ち込みがある。日常生活動作や生活習慣に合わせて電動ベットを活用したり、マットレスの使用を考慮するなど、細やかな配慮で居室づくりを支援している。		